

あらすじ

×月××日、晴れ。

陸を走る豪華客船とでもいべき、全12両編成のクルーズトレイン「真秀らば」は、北海道へ向け鉄路をひた走っていた。

上野を発ち日本海側を巡り……全四日のうち半分の行程を終えた列車は、この後、北海道へと向かうトンネルをくぐり、明日は北海道を巡る旅路をたどる予定となっていた。

しかし。

17：10分、列車がトンネルへと入った直後、車内に異変が起きる。

6号車の後部……7号車へと通じる連絡通路が理由もわからないままに閉ざされてしまい、他の乗客や乗務員と隔離されたあなたたちは、たった8人で前方6両へと取り残されてしまった。

凄惨な事件が明るみに出たのは、それから5時間後の22：20分のことだった。

電波も通じないトンネルの中で、状況の改善を待ち時間を過ごすあなたたちは……突然の車内放送で1号車の展望ラウンジへと集められたのだ。

そこでは、運転士が何者かによって命を奪われていた。

運転士の腹部には、鋭いもので割かれたように大量の出血をともなう大きな傷がある。彼が何者かに殺害されたのは確実だった。

沈黙の中で、車掌はあなたたちに更なる追い打ちをかける。

この列車は今、ブレーキが効かず、司令所との通話もできない状態にありながら、なお走り続けているというのだ。

……この列車でなにが起きているのか、運転士を殺したのはいったい誰なのか。

ただ一つ言えるのは、「犯人は、間違いないこの中にいる」ということだけ。

こうしてあなたたちは、自分や大切な人の命を守るために、閉鎖された列車の中で、運転士を殺した犯人を捜すべく調査を開始したのだった。